



University of the Ryukyus Library Bulletin Vol.29 No.3(No.111) July 1996

図書館から学術雑誌が消える？ —無重力化する学術情報—

医学部分館長 平田 幸男

暗闇に焼け跡のバラックが続く敗戦直後の街のなかに、そこだけは明るく灯っている一画がある。近ずいてみると学生達が机に向かっている一連夜の停電で本が読めなくて困っていた学生のために、停電を免れていた国鉄の駅、わが家の近くでは、中央線の阿佐ヶ谷駅が、彼等のために駅構内の電灯の下に机を出してくれたのである。一明るい灯のもとで本を読める学生達が子供心にととても羨ましかった僕は今でもこの光景を時々思い出す。それに、街の本屋も大方

焼けて、欲しかった一冊を求めて、都心まで電車でよく出かけたことも。あの頃の「本」への渇きの体験が、頭の中に刷り込まれたせいか、「本」という紙媒体に対する思い入れが僕にはとても強かった。その後の学生生活さらに、研究者としての生活の中でも、本との縁はなかなか切れず、本だけでなくさまざまな印刷物が身の周りに次から次へと溜まって行ったものの、「本」の飢えの時代の記憶が消えず、身边に集まった雑誌や本を捨てることをためらっている

目次	
図書館から学術雑誌が消える？—無重力化する学術情報—	1
私と図書館	4
図書館新電子計算機システムの始動式	6
図書館!! ホームページ開設!!	6
—CD-ROM特集— 附属図書館CD-ROM情報検索システムのサービス開始	7
CD-ROM情報検索システムの使用方法(1)	8
中央館所蔵のCD-ROM一覧	11

次	
利用者の声：CD-ROMは便利です	11
第17回EDCセミナーの開催	12
本学紀要類紹介：—シリーズ3—	13
本学教官著作寄贈図書案内	13
沖縄関係資料新着案内	14
お知らせ	19
図書館事情	20
医学部分館だより	22

うちに、今や物理的にも精神的にも、これらの紙の本や印刷物の山に押しつぶされそうになっていた。しかし、この所へ来て、この「本」への思いもやゝ変わらざるを得ない事態が生じているように見える。この変化の兆しを少し振り返ってみたい。

研究者としてまだ駆け出しだった60年代から70年代にかけて、文献を探すのに、米国国立医学図書館(NLM)発行の、厚くて重い Index Medicus のページをめくるのに難渋していた。80年代に入り日本科学技術情報センター(JICST)に電話をかけ、受話器をモデムに突っ込んで、シソーラスなりそのコード番号を旨く組み合わせて入力すれば、上記の資料を電子化したデータベース MEDLINE (当時は磁気テープで米国から JICST へ送られてきていた。)から、探していた文献が、たちどころに、しかも、抄録付きで見つかるということを知ったときは、まさに驚きで、とても重宝させて貰った。(しかし、当時は、接続料が結構高かったので、検索されたものをその場でプリントするかディスクケットに落とすなどはせず、オフラインであとで JICST から速達で送って貰ったプリントを読んだ。) さらに10年ほど経ってこのデータベースそのものが CD-ROM の形で図書館に入るようになり、電話代や接続利用料を気にしないで文献検索が出来る時代になり、大いに喜んでいたのもわずかの間で、今度は数年前から、この CD-ROM の内容をネットワークに載せて利用することが一般的になった(注1)。本学図書館でも、遅ればせながら今年4月から、この医学関係文献の MEDLINE をはじめいくつかの2次資料が、学内 LAN を通じて利用できるようになった。([びぶりお] 29(2): '新しい情報サービスについて' および本号参照)

研究室で、いまこの文章を書いているモニター上で、必要な文献が居ながらにして探せるのは、その度に図書館へ出かけて行かねばならなかったつい数カ月前と比べたら、まさしく天国で、出不精なものぐさにとっては、とくにこの梅雨時にはとても有り難い。

こんな風に、便利さという点では、著しく進展したとはいえ、現在すぐに目を通せるのは2次資料に限られ、抄録以上に内容を知りたいと

きには、やはり図書館へ直接出かけたり、図書館が所蔵していなければ、他所からコピーを取りよせて貰わねばならない。検索が便利になった分だけ、元の資料の請求が増え、今まで以上に紙媒体の情報が身の回りに積み上がっていく羽目になった。このような、容積のある紙の上に記録されたものを介さず、研究室でいながらにして元の資料を読めたらという、ものぐさなくせにせっかちで我が侷な人間は僕以外にも多いらしく、これに応じてネットワーク上で直接出版する online publishing または electronic publishing が、いくつかの出版元からなされている。electronic journals (E-journal) の件数は、93年4月には45だったものが、95年5月には306誌に増えている(注2)。今後、ますます増加しそうで、学術雑誌刊行の最大手の Elsevier は、同社の1,100誌全部を電子化する予定であるという(注3)。今のところ電子雑誌のみと言うわけではなく従来の紙媒体の冊子体のそれとの平行出版がほとんどであるが、これからは、あとで述べる理由から、とくに即時性と流通性が大事な学術雑誌については、E-journal が主となり、紙媒体のそれは、消えていくのではないかと考えられる(注3,5)。

今、平行出版されている雑誌で同じ論文や記事を両媒体で比べてみると、情報の媒体の容積なり、重さの違いは勿論であるが、電子出版の場合には、ハイパーテキストの得意技で、この論文に引用されている重要な文献や、関係情報が、マウスでクリックしただけで直ぐに探し出せ、そして読めるという、印刷冊子体では真似の出来ない利点があり、この点では、それぞれの論文なり記事自体がデータベースとしての機能を持つことになる。さらに、E-Journal の場合には、2次元の紙面に印刷できる情報に限らず、動画や音声をも容易に掲載することが出来る。

ところで我々研究者は、他所の仕事の内容を文献として知ることだけでなく、むしろ自分の研究の成果を外に向けて公刊 publish するのが大事な仕事なのだが、これまでは、その内容を、まず投稿原稿という、紙の上に記録されたものにして、それを(近頃は、文字部分については、テキストファイルとして電子化されたディスクケットを送ることも多いが)編集者に送る。編集者

は、それを複数の査読者 referees に送って、その学術雑誌に掲載するのに適した論文であるかの判定を求める。すぐに採択されることもあるが、多くの場合いくつかの問題点が指摘され、それについて何回かの原稿の改訂がなされ、

(医学領域の国際的一流紙では、投稿原稿の約10%のみが) ようやく受理される。それから出版社へ原稿が回され、版が組まれ、校正がなされ、印刷・製本を経て出版され、それが予約読者や図書館に送られて、やっと公刊が完了する。この間(投稿から出版まで)ふつう半年から1年半かかる。この間、時間だけでなく、人手、印刷の費用、物としての流通経費いずれも馬鹿にならない。しかも、昨今は、学術雑誌の出版が、大手の出版元に寡占されたこともあってか、雑誌の価格は年々騰っている。(86年から94年の間に115%の高騰、これに引きずられて図書館の雑誌経費はこの間93%増えている(注2,3)。

これらの時間と経費の無駄をなくし、研究成果を早く、安く公刊するには?これに対する答えが、従来の trade publishing に対し scholarly publishing と呼ばれる所の、個々の研究者からの電子出版ないし electronic preprint と言われるものである(注4)。この場合、研究者は、投稿原稿そのものを(編集者へ送ると平行して、もしくは、それなしに)ネットワークに載せる。紙の媒体への印刷と比べたら費用はほとんどゼロ、投稿と公刊の時間差ゼロで誰もが読める。あとで、この投稿論文に対する査読者・編集者の評価や、コメント、採否が付加される形式にすることも可能だし、一般の読者からのこの論文へのアクセスなりファイルのコピーの回数自体が、この論文の評価になりうる。また、論文内容の加筆や訂正も自由に出来る。紙媒体の出版企業がこの先どのように生き残って行くのかとか、著作権についてのさまざまな問題等があるだろうが、これは、近い内に解決されるだろうし、その前に著作権の考え方自体が変わると思われる(注6,7)。

かくして、学術情報は紙という容積と重さのある媒体から離れて無重力の世界に移り始める。そして紙に印刷された学術雑誌は、まず紙媒体冊子の値段が他の分野のそれと比べて高く、速報性が特に強く求められる自然科学系のものか

ら消え始める(注5)。この無重力化は次第に他の分野にも、そして単行学術書にもおよび、ついには図書館の新着誌の書架から紙の本が、ほとんど消えていくかも知れない?

新着雑誌や新しい単行書を開くときの、紙の上の活字を追うという行為の悦びを予感させるあの何とも言えないインクと紙の香り、ページをめくる時の紙の感触。これらは、少なくとも学術書に関しては郷愁でしかなくなるのではなからうか? 身辺にうずたかく積み上げられ、鬱陶しいとは思いつつもなかなか縁の切れなかった、紙に印刷された本や雑誌とのこれまでの付き合いも、すこし寂しいことではあるが、そろそろ見直す潮時なのではないかと思っている。

(解剖学教授:ひらた ゆきお)

注

- (1) Yoshihara, H.: Sharing of CD-ROM database on a personal computer network-Construction of a system and it's experiences.
<http://www.miyazaki-med.ac.jp/>
- (2) McEldowney, P. (1986): Scholarly electronic journals-Trends and academic attitudes.
<http://poe.acc.virginia.edu/~pm9k/libsci/ej5.html>
- (3) Taub, G: Science journals go wired. Science 271, 794, 1996./Web version:
<http://science-mag.aas.org/science/scripts/display/full/271/5250764.htm>
- (4) Taug, G. (1996): Electronic preprints point the way t'author empowerment'. Science 271, 767-8./Web version: ibid.
- (5) LaPorte RE et al: The death of biomedical journals.
<http://www.bmj.com/bmj/archive/6991ed2.htm>
- (6) 会庭 惇 (1996): 電子出版の未来形. 57pp. マルチメディア出版研究会・出版研究センター
- (7) Harnad, S. (1995): Implementing peer review on the net: Scientific quality control in scholarly electronic journals.
<http://louis.ecs.soton.ac.uk/~harnad/&http://www.princeton.edu/~harnad/>

私と図書館

理学部海洋自然科学科 日高 道雄

私は1979年に琉球大学に赴任したので、首里キャンパスの図書館の記憶もかすかに残っている。今の図書館から見れば図書室のようであったが、海洋生物関係の雑誌はわりと揃っているというのが初印象であった。当時の私は生物学科と生協と図書館くらいしか行くところがなかったので、愛着のある場所であった。生物学科のある先生のお嬢さんが司書として勤められているのをしばらくたってから知り、半年早く琉球大学に赴任していた本川先生と世間は狭いものだ話し合った。今にして思えば、沖縄では余所から来た人には見えない人脈ネットワークがあり、そういう密な人と人のつながりがあることを知らなかった当時の我々を思い起こすとおかしき気がする。

首里から移転した図書館は順調に大きくなりそして使いやすくなってきていると思う。昔は雑誌が分類番号ごとに並んでいたもので、必要な雑誌を探すのに苦労したが、今ではアルファベット順に並べられているのですぐに目的の雑誌の場所に行ける。雑誌を探していると、何年間かにわたって購読が中止されていて、目的の巻号がないという目によくあったが、最近はそのようなこともあまりない。図書館にない雑誌でも申し込めば相互サービスでコピーを手に入れることができる。昔は1、2カ月待ったものだが今では1、2週間で手に入る。目的の雑誌がどの図書館にあるかは、学術雑誌所蔵目録という厚い目録で調べなくてははいけなかったが、今ではCD-ROMで検索できる。

私は、1980年代後半から図書館でアメリカのデータベースDIALOGにつないでもらい、BIOSISファイルなどを使用して文献検索を行っていた。数十件出力し、5千円から1万円弱であった。経済的な理由もあったが、特に先端的研究をしているわけでもないのに、データベースを使用するのは、半年に1回くらいであった。検索結果は図書館のパソコンにダウンロードされるのだが、機種が違うためデータを自分

のパソコンに移すことができなかったもので、プリントされたものをもらって研究室に持ち帰った。そのうちに、Current Contents on Disc (CCOD) (Life Science分野)が導入された。しかし当時は、ディスクをユーザーがハードディスクにロードするシステムになっており、さらにハードディスクの容量が確か20MBくらいしかなく、実用的でなかった。新しいディスクをロードするために前の古い号を消去しなくてはならず、データを蓄積し役に立つデータベースを作ることができなかった。CCODの検索結果は、フロッピーで持ち帰れば、自分のパソコンのDBASEなどのソフトで作成したデータベースに取り込むことができるらしかったが、やはりそのやり方が分からず、プリントアウトした紙を持ち帰った。数カ月分を一度に検索することができないことと、また忙しくて数カ月図書館に行かないこともあって、自然とCCODを使用しなくなってしまった。当時はハードディスク容量をせめて100メガにしてくれればと思って、それを要望したりもした。この4月から稼働したCCODははるかに大きな記憶容量を持っていると思われる。図書館の方でフロッピーディスクからハードディスクにロードしてくれるので以前よりは使いやすい。ただ操作性は前と変わらずあまり良くない。さらに今度は様々な分野のカレントコンテンツが入っており、前の号を見るにはいくつかの他分野のコンテンツを飛ばして選択しなくてはならずそれも煩わしい。ただこれは数週間または数カ月分をまとめて検索しようとするからいけないので、自分用の検索式を作成しておき、毎週研究室からオンラインで検索する体制を整えれば非常に便利なものである。そもそもカレントコンテンツとはこういう使い方をすべきものですよと言われればそれまでだが、思いついたときに少し古いところまで調べたくるのが人情である。

昨年暮れ、タイのチュラロンコン大学の研究者が訪れ、「ある著者のある年の論文を探し

たいが、CD-ROM はどこにあるのか」と聞かれた。当時はCD-ROM はまだなかった（医学部分館にはあったのかもしれないが知らなかった）ので、Biological Abstract のある書庫に案内し、探してもらった。1年間分と言っても何冊もの厚い Biological Abstract の中から著者索引で探すことはなかなか大変だったと思うが、用は足りた。この4月から、Biological Abstract や Medline のCD-ROM が使えるようになった。学生がゼミで読む論文を探すために、いきなり図書館に行ってCD-ROM で文献検索をしてきた。友達に習ったとはいえ、なにも知らない学生が簡単に検索してきたので、そんなに簡単なのかと思い自分でもやってみた。すると非常に簡単にできるのである。図書館で講習を受けたときにはそれほど簡単に思えなかったが、おもしろいくらい簡単に、マニュアルも読まずに検索ができてしまう。例えばサンゴの生殖についての論文を探そうとして、キーワードに coral reproduction と入力するとコンピュータの方で勝手に coral の検索結果と reproduction の検索結果の共通集合を作ってくれる。こうなると図書館のCD-ROM がいつでも使える自分用のデータベースになるので、自分用の文献データベースを作る意義が薄れてくる。しかし論文を書いたりするには、検索結果をいくつかの分野ごとに自分のハードディスクに入れておくことが必要である。私はマッキントッシュのパソコンを使っているが、マックには EndNote という良い文献データベースのソフトがあり、いったん文献データベースを作っておくと、論文を

書く時、引用文献をそのデータベースから引き出し、投稿する雑誌の形式でワープロに取り込むことができる。このソフトを使いこなしているわけではないので大きなことは言えないが、マックの使用者も図書館のCD-ROM 文献検索システムの機能をフルに利用できるようになるとうれしい。今後はCD-ROM とともに、需要の多いデータベースにはインターネットを介してすぐにつながる専用のコンピュータを何台か置き、DIALOG の BIOSIS ファイルなどのデータベースをもっている国内の他大学の情報処理センターにつないで使うことができると便利である。また Biological Abstract のバックナンバーも10年分くらいそろえてもらいたい。そして自分の論文を誰が引用してどんな論文を書いているかが分かるサイテーションインデックスのCD-ROM もあれば非常に有用である。

パソコンを最近使い始めた人は、昔始めた人よりも高性能な機器を使いやすい環境で使うことができる。琉球大学の図書館も情報化という点では後発グループであろうが、その分最先端のシステムを導入できるメリットがある。情報化の一方で、図書館で雑誌の目次を眺めてはべらべらとめくって思いがけないヒントを与えてくれる論文と出会うことがある。探していた論文の次に載っている論文が意外におもしろかったりすることもある。琉球大学の図書館には先端的な情報検索システムとともにのんびりと雑誌をめくるための静かでゆとりのあるスペースを望みたい。

(理学部教授：ひだか みちお)



図書館新電子計算機システムの始動式

平成8年6月13日(木)附属図書館多目的ホールに桂学長、岩崎事務局長、砂川前学長をはじめ図書館運営委員会の諸先生方の出席のもと「図書館新電子計算機システムの始動式」が行われました。

今回の新システムは、仕様の検討から教えて約2年の歳月をかけて完成したのですが、メイン・フレーム中心の前システムに比べ、クラ

イアント・サーバー方式をとり、wwwの図書館ホームページ、マルチメディア/プリンガル情報システム、CD-ROMネットワーク検索システムなどの情報サービスシステムに大きな重点を置いた全く新しいシステムです。

この始動式は、「図書館情報サービス元年」、「電子図書館元年」としての位置づけで挙行されました。(写真参照) (システム管理係)



図書館!! ホームページ開設!!

図書館のホームページができました。内容は、お知らせや利用案内ですが、データベース検索(CD-ROM検索)やOPAC(所蔵検索)の利用もできるようになりました。

特に琉球大学の図書館としての特色を生かした「展示資料室」のコーナーを設けました。これは、これまでに図書館が行った展示会の資料をネットワーク上で展示する試みです。その展示内容は「仲宗根政善先生言語資料展」「伊波普猷文庫貴重資料展」「矢内原忠雄文庫南洋群

島関係資料展」です。現在のところ文書の資料のみの展示ですが、これに写真資料等を加え整備して行く計画です。

できたてのホームページなので整備が必要ですが、今後は、ホームページに日々新しい情報を加え、利用者サービスを充実させて行くつもりですので、ご利用下さい。

尚、ホームページのアドレスは、<http://lib1.lib.u-ryukyu.ac.jp/>です。(システム管理係)



—CD-ROM 特集—

附属図書館 CD-ROM 情報検索システムのサービス開始

附属図書館では、この4月に、学内LANを利用してCD-ROM情報検索システムのサービスの試行運用を行い、連休明けより本運用を開始しました。

ERLサーバではMEDLINE、Biological Abstractsを、Opti-netサーバでは「雑誌記事索引」を、ファイルサーバではCurrent Contentsを提供しています。

図書館内の図書館専用端末は、誰でもすぐに利用できるようにセットアップされています。メニューを選択し、画面の指示に従えば、比較的簡単に一応の検索ができます。端末の脇にマニュアルを備えてありますので参照してください。わからないことは遠慮なく職員にお尋ねください。

このシステムの完成により、学内LANを通して、研究室などから24時間利用が可能になりました。

システムの利用説明会は4月16日(火)に、中央館で午前中に2回、分館で午後から2回開催され、本館で約50名、分館で約80名の参加がありました。

ERLサーバの利用可能な端末は、Macintoshを始め、Windows、DOS(DOS/V等IBM互換機)、Unix等、学内LAN接続可能(telnetコマンド利用)な機器です。

Opti-netサーバ、ファイルサーバについては、端末側に検索専用のソフトウェアをインストールしないと利用できません。このソフトおよびセットアップは有償で、各自の負担となります。また、このソフトを搭載できるのはDOS、Windowsのみで、Macintoshには対応できていません。

図書館内の図書館専用端末から利用する場合は、これらのデータベースの利用は無料です。しかし、研究室等からこれらのデータベースを

利用する場合には、利用者番号が必要となり、原則として有料となります。(ただし、所属している学部・学科等が、そのCD-ROMの購入経費を負担している場合には、当該学部・学科等の教職員の当該CD-ROMの利用は無料です。例えば、MEDLINEのCD-ROM購入経費は医学部が負担していますので、医学部の教職員は利用者番号さえあれば、どこからでもMEDLINEを無料で利用できます)。

研究室等からの利用のためには、まず、利用者番号を取得してください。図書館(中央館、医学部分館)のサービスカウンターで利用申請の手続きが行えます。

ただし、このシステムの利用料金の支払方法は教官研究費での予算移し替えのみとなっていますので、申請にあたっては教官研究費を持っている経費負担者の同意が必要です。

利用が承認されると、利用承認書が交付されます。利用承認書には接続手順などの説明書が添付されているので、その説明に従って接続し、システムを利用してください。

ERLサーバの利用方法としては、次の三通りの方法があります。

1. UNIXコマンドのtelnetの利用
2. Netscape等のインターネット・ブラウザの利用
3. 検索専用ソフトの利用

利用に関しての問合せ先は資料サービス係(内線番号:千原2141、上原2733)です。また、機器やソフトウェアのことに関してはシステム管理係(内線番号:千原2146)にお問い合わせください。

(医分館資料サービス係)

CD-ROM 情報検索システムの使用方法 (1)

Medline, Biological Abstracts

CD-ROM 情報検索システムの使用方法を簡単に説明します。今回は MEDLINE と Biological Abstracts についてです。Current Contents と雑誌記事索引の説明は次号を予定しています。

図書館内にある図書館専用端末では、最初からメニュー画面がセットアップされています。研究室等からのアクセスでは、まず、図書館のホームページにアクセスし、CD-ROM 検索の項目を選択すると、メニュー画面が出てきます。

最初のメニュー画面に出ているデータベースから、使用したいデータベースを選択し、その番号を入力します。次の 5 つの選択肢から選びます。

1. MEDLINE, Biological Abstracts
2. Current Contents
3. Current Contents (Multi Issue Search)
4. 雑誌記事索引
5. Netscape Navigator

I. MEDLINE, Biological Abstracts の場合

A. 検索画面までの操作手順

- (1) 1. MEDLINE, Biological Abstracts を選ぶと、Silverplatter Information の画面になるので「Start」ボタンをクリックします。
- (2) Available Databases の画面になるので
 - ① 左側の「Choose from these Databases」の枠内で選択するデータベースをクリックします。連続する複数のデータベースを一度で選択することもできます。
 - ② 「Add」ボタンをクリックします。
 - ③ 選んだデータベースが右側の「Use these Databases」に表示されます。
 - ④ 「OK」ボタンをクリックします。
- (3) データベースについての説明 About MEDLINE 画面になるので、「OK」ボタンをクリックします。
- (4) 検索画面 (メイン スクリーン) になります。

B. 検索画面 the main SPIRS screen での操作

検索語入力 Search エリアに検索語を入力し、マウスでボタンやメニューを操作して検索・印刷などを実行します。

画面の名称などについては、次項「C. 検索画面 the main SPIRS screen についての説明」を参照してください。

(1) 検索

検索語入力 Search エリアに検索語を入力（複数可、人名・誌名なども可）し、“Search” ボタンをクリックします（あるいは Enter キーを押します）。

(2) 検索結果表示

検索履歴エリアに検索履歴が検索語単位で表示され、検索結果エリアに検索結果のレコードが表示されます。

(3) データ選択

エリア右端のスクロールバーをクリックすると表示データの移動ができます。
必要に応じて、印刷・保存に必要なデータをマークします。

(4) 印刷ダイアログボックス

File メニューから Print Records を選択（あるいは “Print” ボタンをクリック）して “Print Records” ダイアログボックスを開きます。

(5) 印刷

印刷対象フィールド、印刷対象データを選択し、必要があれば “Option...” ボタンで設定変更を行い、“Print” ボタンをクリックします。

(6) マークのクリア

レコードにマークをつけている場合には、マークをクリアするかどうかの問い返しがあります。YES、NO、HELP から選択します。

(7) 終了

File メニューから “Exit” を選択します。本当に終了していいかの問い返しがありますので、再度 “Exit” をクリックします。最初のメニュー画面にもどります。

C. 検索画面 the main SPIRS screen についての説明

1. 検索画面は3つのエリアで構成されています。

(1) 検索語入力エリア Search Area エリア

このエリアに検索語（複数可、人名・誌名なども可）を入力し、“Search” ボタンをクリックして（あるいは Enter キーを押して）検索します。

このエリアの追加オプションとして次の3つのボタンが使えます。

- ① “Suggest” ボタン : 関連語検索機能
- ② “Index” ボタン : データベースの語の索引をリストする機能
- ③ “Thesaurus” ボタン : 統制語による検索を行う

(2) 検索履歴エリア Search History Area

検索履歴が検索語単位で表示されます。

このエリアの追加オプションとしてエリア右側の4つのボタンが使えます。

- ① “Show” ボタン : 検索結果の表示
- ② “Limit” ボタン : 検索結果の絞り込み
- ③ “Retype” ボタン : 検索語の再入力
- ④ “Clear” ボタン : 検索履歴の削除

(3) 検索結果エリア Retrieved Records Area

検索結果のレコードが表示されます。

各データの左側にマークをかけるためのキーがあるので、印刷・保存に必要なデータをマークすることができます。

表示データの移動はエリア右端の上下スクロールバーをクリックして行います。

このエリアの追加オプションとしてエリア下側にある以下のボタンが使えます。

- ① “Next Hit” “Previous Hit” ボタン : 表示レコードのスクロール
- ② “All Fields” “Brief Fields” ボタン : 全データの表示か、あるいは一部フィールドのみの表示かを切替え
- ③ “Add to Search” ボタン : 表示データ中の言葉から直接検索する際に使用する
- ④ “Full Screen” “Close Full Screen” ボタン : 検索結果画面を最大表示、半分表示に切替え

2. 画面上部のメニューバーには8種類のメニューがあります。

それぞれの文字をクリックするとサブメニューが利用できます。

- (1) File メニュー : 検索履歴の保存と読み込み、結果レコードの印刷と保存、データベースの変更、SPIRS の終了
- (2) Edit メニュー : テキストデータのコピーとペースト、検索履歴の消去
- (3) Utilities メニュー : 検索ツールを提供
- (4) Records メニュー : マーキング、ソーティング、画面送り
- (5) Mark メニュー : レコードのマーク、アンマーク
- (6) Options メニュー : 印刷・表示・保存する際のフォーマットをカスタマイズ
- (7) Views メニュー : 表示ウィンドウの変更
- (8) Help メニュー : ヘルプ情報を提供

3. データベースの切替え、印刷、ダウンロードはメニューバーの下にある “Database”、“Print”、“Download” ボタンをクリックします。

以下は次号以降の掲載予定です。

- (2) Current Contents
Current Contents (Multi Issue Search)
- (3) 雑誌記事索引

(医分館資料サービス係)

中央館所蔵の CD-ROM 一覧

CD-ROM のソフトは 2 階のカウンターに準備してありますが No.1~No.24 は出納式です。ご利用の際はカウンターに申し出て下さい。

12 番の判例体系は事務室内に設置しました。利用時間は 9:00~17:00 です。

1. 雑誌記事索引 1990-1995
2. 平凡社世界大百科事典
3. CD-HIASK (朝日新聞全文記事情報: 1985-1992)
4. 朝日新聞記事索引 1985-1991
5. CD-MAGAZINE (雑誌記事情報: 1981-1992)
6. CD-BOOK (図書内容情報: 1986-1992)
7. 現代用語の基礎知識
8. 岩波電子日本総合年表
9. 三省堂模範六法
10. CD-新現代執筆大辞典
11. ODYSSEY 1967-1972
12. 判例体系 CD-ROM
13. 日本経済新聞 (日経全文記事データベース) 1990-1994
14. CD 毎日新聞 1992-1993
15. 学術雑誌総合目録 1989
16. 電子広辞苑
17. 国立国会図書館蔵書目録 (明治期)
18. CD-WORD (六ヶ国語辞書)
19. Shakespeare Disk Passage
20. Oxford English Dictionary
21. Encyclopedia Americana 1995
22. Dictionary of National Biography on CD-ROM 1995
23. Global Books in Print 1996
24. German Books in Print 1996

下記の I~IV はネットワーク型の CD-ROM です。開館中はいつでも利用できます。

- I. Medline (1966年から現在まで)
- II. Biological Abstracts (1995年から現在まで)
- III. Current Contents

人文系を除く農学、生物、環境、臨床医学、工学、生命科学、社会科学、理化学、地球科学等の分野の日次情報誌で内容は半年前から現在まで、一週間単位で更新されます。

- IV. 雑誌記事索引 (1985年から1995年までの人文、社会、科学技術等の分野)
(資料サービス係)

利用者の声：CD-ROM は便利です

私は中国上海から来た留学生です。今医学研究科の院生です。

現代社会は情報の社会といわれて、院生の勉強も情報と関わっています。文献の検索、研究の動向などを知ることが必要です。そこで私はいつも図書館へ行きます。図書館の職員たちは非常に親切で、熱心に色々な図書館の利用方法を教えてくれました。その中で CD-ROM サービスの事を特に教えてくれました。私は図書館ですぐ全世界の文献や研究の動向などを調べる事ができるので非常に助かっています。

本国での私の大学時代は CD-ROM を使用す

る場合は情報処理センターへ行かなければならないし、また、コンピュータが少ないので待つ時間が非常に大変でした。文献情報をすぐに取りれないこともありました。

現在、琉大医学部図書館に CD-ROM 検索用のコンピュータが増えました。私たちの研究にとっても、もっと便利になり助けになっています。私はこの便利なサービスについて感謝の気持ちがいっぱいで、研究を頑張りたいと思います。

医学研究科保健医学講座
馮坤範 (Fong Kun Fan ヒョウ コンハン)

第17回 EDC セミナーの開催

第17回 EDC セミナーが5月30日（木）、31日（金）の2日間に渡って、駐日欧州委員会代表部と琉球大学附属図書館の主催で開催されました。

EDC セミナーの目的は、各資料センター（European Documentation Centre）と寄託図書館（DEP）である国立国会図書館間の連携を保ち、欧州連合（European Union）に関する図書館活動の向上発展に寄与することと、併せて欧州連合（EU）各機構から発行された出版物や資料の普及および利用の促進を図ることにあります。

現在国内には、19の大学に EDC が、国立国会図書館に DEP（Depository Library）が設置され、毎年セミナーが開かれています。当館は、昭和60年11月に14番目の EDC 資料センターに承認されました。

今回のセミナーは、北海道大学をはじめ、16機関21名の出席があり、1日目は沖縄都ホテルを会場に、駐日欧州委員会代表部の末常美和子氏からヴィレム・ヴェルブースト広報部次長の講演会原稿の代読に続いて、各 EDC の活動報告、EU 参考資料の紹介、EU 関係の文献の書誌作成、また、駐日欧州委員会代表部の市川啓子氏からは、それぞれの EU 資料センターが受けたレファレンスの事例に回答があり、引き続き、インターネットを使用した情報検索の方法のあと、琉球大学法文学部森井裕一講師の講演「欧州統合・国民国家・地域」がありました。



セミナー風景（沖縄都ホテルに於いて）

2日目は、琉球大学附属図書館に会場を移し、開催しました。当日の朝は、沖縄都ホテルからマイクロバスを運行し、あいにく梅雨前線が沖縄近海に停滞していたため天気はぐずつき、千原キャンパスは濃い霧に包まれていましたが、ループ道路を一巡し、キャンパスを案内したところ、参加者からは非常に好評でした。

到着後、図書館の見学、市川啓子氏による「初心者対象」実務セミナー、また、EU への要望に対する回答があり、昼頃全セミナーの日程を終了することができました。



森井講師の講演

セミナー終了後に予定されていた駐日欧州委員会代表部ヴィレム・ヴェルブースト広報部次長による学生及び一般の人を対象にした講演会は、ヴィレム・ヴェルブースト氏の都合により急遽中止となりました。

なお、琉球大学附属図書館の EU 資料センターは中央館の2階、国際資料室の入口付近に設置し、ブリュッセルの欧州出版局から送られてくる EU 各機関の公式資料や出版物をはじめ駐日欧州委員会代表部広報部発行の「隔月刊 ヨーロッパ europe」など日本語の広報資料も配架しており、自由接架方式で、一般の人へも開放しており、今後ますます利用の増えることが期待されます。

（参考調査係）

本学紀要類紹介：—シリーズ 3— 法文学部

「ヒューマンサイエンス」

(Ryudai Human Science Review)

発行者：琉球大学法文学部人文学科人間科学系

1995年3月創刊 年刊

ISSN 1341-1284

本誌は、1994年度の本学部の改組にともない、1995年の3月に第1号が刊行された。原則的に毎年1回の発行を予定している。1号には4編92ページが掲載され、2号には13編が掲載される予定である。本年度発行予定の2号は人間科学系所属の2教官の退官記念論集でもあり、質・量ともに記念論集に相応しいものを目指した。使用言語は、日本語または英語である。

投稿資格は、原則として法文学部人文学科人間科学系に所属する教官であるが、人間科学系の各教官の専攻分野と関連の深い学問領域を担当する本学所属の教官の投稿も歓迎している。また、前述の資格を有する教官との連名で他大学所属の研究者および本学の大学院生の投稿も

可能であり、広く門戸を開放している。

本誌は、現在600部発行し、国内の大学や研究機関に送付されている。出版費用は、投稿有資格者の校費をもって充てている。

本誌の特徴は、人間科学系の所属教官の専門領域が哲学、言語学、教育社会学、社会心理学、臨床心理学と多岐に渡っているため、掲載される論文の内容も多様なものになっていることである。また、研究領域の多様性のみならず、研究方法としても、理論中心の論考から実証的な研究、フィールドワークに基づくものなど多彩なものとなっている。

創刊されて2年という短い期間ではあるが、研究テーマや研究方法などに対する制約が比較

的緩やかな本誌は、自由な学術討論の場として機能し始めていると言えよう。また、ヒューマンサイエンスという大きな枠組みの研究領域の統合化に向けて貢献していくことが本誌の今後の課題であると考えている。

(法文学部講師：高良 美樹)



本学教官著作寄贈図書案内

1996年2月～1996年4月

成富 研二 (医学部)

先天性奇形症候群および遺伝性疾患データブック：改訂第2版／成富研二著 東京 診断と治療社、1995.10 QZ50

新里 孝和 (農学部)

森へゆこう：大学の森へのいざない／全国大学演習林協議会編 東京 丸善、1996.1

650.4-ZE

注) 各資料末尾の記号は請求記号です。

沖縄関係資料新着案内

1996年2月～1996年5月

0類 総記

1. 沖縄県における情報サービス産業：その実態と展開の方向／沖縄県中小企業振興公社 中小企業センター編 那覇 沖縄県中小企業振興公社中小企業情報センター，1988
K007.3-OK
2. 北谷町中間報告書金良宗邦文書：易・擇日・風水／北谷町教育委員会 北谷町 北谷町教育委員会，1993.3 K025-CH
3. 島立(しまーりつ)まぶい図書館からの眺め：沖縄・奄美プライベートブックレビュー100／まぶい組編 那覇 ボーダーインク，1996.3 K025-MA
4. 沖縄協会資料室資料目録／沖縄協会編 東京 沖縄協会，1993.3 K025.8-OK
5. 沖縄県公共図書館(室)所蔵新聞・雑誌総合目録；1990年8月現在／沖縄県公共図書館連絡会 那覇 沖縄県立図書館，1992.6
K027.5-OK
6. 沖縄県公共図書館(室)所蔵新聞・雑誌総合目録；1992年12月現在／沖縄県立図書館 那覇 沖縄県立図書館，1994.3
K027.5-OK
7. 沖縄県立図書館館外協力用図書目録；本館分：平成3年度～平成5年度／沖縄県立図書館編 那覇 沖縄県立図書館，1994.3
K029.2-OK
8. おちゃめのカンヅメ：琉球放送ラジオふれ愛パレット番外篇／玉城デニー、富原志乃編著 浦添 沖縄出版，1995.12
K049-TA
9. インパクション no.95：96年沖縄 東京 インパクト出版会 K051-IM
- 1995.3 (南日本文化研究所研究叢書 20) K201-MI
3. 沖縄戦後初期占領資料；1-100；解題・総目次／ワトキンス文書刊行委員会編 宜野湾 緑林堂書店，1994.5 K201-WA
4. 阿麻和利 [映像資料]／沖縄県公文書館企画・シネマ沖縄制作 那覇 シネマ沖縄，1995 K201-OK
5. 琉球の歴史：新装版／宮城栄昌著 東京 吉川弘文館，1996.1 (日本歴史叢書) K201-MI
6. 糸数アブチラガマ：糸数壕／糸数アブチラガマ 玉城村(沖縄県) 糸数アブチラガマ整備委員会，1995.5 K201.12-IT
7. GHQへの日本政府対応文書総集成；第1巻—第24巻 東京 エムティ出版，1994.7-11 K201.76-GH
8. GHQ—日本政府来往信文書目次総集成：来信編：往信編 東京 エムティ出版，1995 K201.76-GH
9. GHQ指令—SCAPIN—A 総目次／竹前栄治監修 東京 エムティ出版，1994.7 K201.76-GH
10. 戦後日本の形成と発展：占領と改革の比較研究／皆村武一著 東京 日本経済評論社，1995.10 K201.76-MI
11. 森と文明／安田喜 東京 朝倉書店，1996.1 (講座文明と環境 第9巻) K208-KO
12. 宮古の戦争と平和を歩く／宮古郷土史研究会編 平良 宮古郷土史研究会，1995.11 K240-MI
13. 沖縄歴史人名事典／島尻地区小学校社会科研究会著 那覇 沖縄文化社，1996.3 K280.3-SH

1類 哲 学

2類 歴 史

1. 琉球中世史の一断面／大田政作著 東京 大田政作，199 K201-OT
2. グスク(城)の姿／名嘉正八郎著 鹿児島 鹿児島短期大学付属南日本文化研究所，1995.7 K289-KO
14. 年輪／重村友吉著 徳之島(鹿児島) 潮風出版社，1996.3 K289-SH
15. 蟻の詩(うた)：嵩本正宜自伝／嵩本正宜著 石垣 ミル出版，1995.9 K289-KA
16. 南国遍歴：伝染病医の回顧録／小張一峰著 [出版地不明] 小張一峰，1995.7 K289-KO

17. ヤマト嫌い：沖縄言論人・池宮城秀意の反骨／森口豁著 東京 講談社，1995.9
K289.1-MO
 18. ゼンリン住宅地図：沖縄県：浦添市 '96 北九州 ゼンリン，1996 K290-ZE
 19. ゼンリン住宅地図：沖縄県：与那原町 '96 北九州 ゼンリン，1996 K290-ZE
 20. ゼンリン住宅地図：沖縄県：沖縄市・北谷町 '96 北九州 ゼンリン，1996
K290.38-ZE
 21. The Eastern seas : being a narrative of the voyage of H.M.S. "Dwarf" in China, Japan, and Formosa / by B.W. Bax London John Murrey, 1875 K290.9-BA
 22. Memoirs and travels of Mauritius Augustus Count de Benyowsky, magnate of the Kingdoms of Hungary and Poland, one of chiefs of the Confederation of Poland. Vol.1-2 / by Benyowsky London Printed for G.G.J. and J.Robinson, Peter-Noster-Row, 1790
K290.9-BE
- 3類 社会科学
1. あまみダイジェスト／沖縄奄美連合会編 那覇 沖縄奄美連合会・三火会，1990.5
K302-OK
 2. 南の島のはなし／新城俊昭著 中城村(沖縄県) むぎ社，1996.1 (若太陽文庫)
K304-SH
 3. 沖縄反骨のジャーナリスト：池宮城秀意セレクション／池宮城秀意著 那覇 ニライ社，1996.3 K304-1K
 4. 太田朝敷選集 下巻：[社会・文化編]／太田朝敷著：比屋根照夫，伊佐眞一編 東京 第一書房，1996 K308-OT
 5. 公文類聚目録；第11／国立公文書館編 東京 国立公文書館，1985 K310.9-KO
 6. 沖縄の帝王高等弁務官／大田昌秀著 東京 朝日新聞社，1996.2 K312-OT
 7. 公文書の旅・世替りの国 [映像資料]／沖縄県公文書館企画・シネマ沖縄制作 那覇 シネマ沖縄，1995 K318-OK
 8. 東苑：崎山ハイツ自治会創立20周年記念誌／崎山ハイツ自治会編 那覇 崎山ハイ
ツ自治会，1990.11 K318.3-SA
 9. 沖縄地域における国際交流に関するアンケート調査報告書／沖縄地域学生交流推進協議会事務局編 西原町(沖縄県) 沖縄地域学生交流推進協議会事務局，1990
K319-OK
 10. 沖縄はなぜ基地を拒否するか／安仁屋政昭他著 東京 新日本出版社，1996.3
K319-AN
 11. 安保条約と地位協定：沖縄問題の根源はこれだ／那覇出版社編集部編集 南風原町(沖縄県) 那覇出版社，1995.12
K319.1-NA
 12. 沖縄から「日本の主権」を問う：沖縄米兵少女暴行事件と安保日米地位協定の内幕／沖縄問題編集委員会編集 東京 リム出版新社，1995.12 (時代を読む booklet 2)
K319.1-OK
 13. 移動平和資料館：沖縄県立平和祈念資料館開館15周年記念／沖縄県立平和祈念資料館糸満 沖縄県立平和祈念資料館，1990.8
K319.8-OK
 14. ヤマトンチュの大罪：日米安保の死角を撃つ!!／小川和久著 東京 小学館，1996.2
K319.8-OG
 15. 「沖縄の太陽」物語：一女子高校生の沖縄への愛：島ぐるみの闘いへの序曲／大西照雄著 南風原町(沖縄県) あげぼの出版社，1995.7 K319.8-ON
 16. 沖縄の告発：安保・基地の実態とその危害軍用地強制使用問題で戦後50年の政治を裁く／沖縄県平和委員会編 南風原町(沖縄県) あげぼの出版，1996 K319.8-OK
 17. 日米地位協定の見直しと安保・基地沖縄米軍用地強制使用裁判に関する資料集／沖縄県平和委員会編 南風原町(沖縄県) あげぼの出版，1996.1 K319.8-OK
 18. 「戦後50年」あらためて不戦でいこう!：1995年・市民の不戦宣言集／「戦後50年・市民の不戦宣言」意見広告連 東京 社会評論社，1995.11 K319.8-SE
 19. 異議申し立て基地沖縄：琉球新報の紙面に見る!／琉球新報社編集局編 那覇 琉球新報社，1995.12 K319.8-RY

20. 沖縄から平和を拓く：エミール・沖縄への旅／清水寛編著 東京 あゆみ出版, 1995. 10 K319.8-SH
21. 金武町移民企画展報告書／金武町教育委員会, 1995 K334.4-KI
22. 沖縄県におけるニュービジネス意識調査：ニュービジネス企業イメージとその発展可能性 那覇 沖縄県中小企業振興公社沖縄県 中小企業センター, 1988.3 K335.1-OK
23. うすれゆく島嶼文化：歌謡と自然認識の世界／大山了己著 那覇 ひるぎ社, 1995.12 K361.5-OY
24. 沖縄の民衆意識／大田昌秀著 東京 新泉社, 1995.12 K361.5-OT
25. アセアン・沖縄女性フォーラム報告書：西暦2000年に向けて、アセアンの女性たちは今／沖縄県総務部知事公室 那覇 沖縄県総務部知事公室女性政策室, 1994.3 K367.2-OK
26. 事業報告書：男女共同参画型社会をめざして／沖縄県総務部知事公室 那覇 沖縄県総務部知事公室女性政策室, 1994.3 K367.8-OK
27. 福祉の仕事ガイドブック：いま、求められる福祉の仕事／沖縄県福祉人材センター 那覇 沖縄県福祉人材センター, 1995 K369-OK
28. 豊かなシニアライフを考えるシンポジウム：報告書／沖縄県長寿社会振興財団 那覇 沖縄県長寿社会振興財団, 1994 K369.2-OK
29. 真相医者のひそひそ話：お年寄りの理想郷作りと反対派との闘いの内幕／大浜方栄著 東京 エール出版社, 1996.4 K369.26-OH
30. 玉城村における戦没犠牲の記録：戦没者名簿等／戦没者名簿等編集委員会 玉城村(沖縄県) 戦没者名簿等編集委員会, 1995.5 K369.3-TA
31. 台湾教育會雑誌 第1巻—第11巻, 別巻 台北 臺灣教育會, 1901-1911 K370-TA
32. 揺れるデイパック：沖縄新教育事情／琉球新報文化部編 那覇 琉球新報社, 1995.11 K372-RY
33. 物語文教材の研究／花城有英著 那覇 花城有英, 1992.12 K375.2-HA
34. 琉球大学の教育課程の改革／琉球大学教育改善委員会編 西原町(沖縄県) 琉球大学, 1994.5 K377-RY
35. 琉球大学物理学科同窓会誌：第2号／琉球大学物理学科同窓会 西原町(沖縄県) 琉球大学物理学科同窓会, 1995.8 K377.9-RY
36. あすを担う人づくり／比嘉照夫著 具志川 具志川市まちづくり研究会, 1989 K379.3-HI
37. 花綵列島：民俗と伝承／高城隆著 東京 木犀社, 1995.8 K380.4-TA
38. 堀田吉雄論攷集：カジマヤー記念／堀田吉雄著 桑名 伊勢民俗学会, 1994.9 K382.1-HO
39. 民俗学の視座：堀田吉雄先生カジマヤー記念論文集／堀田吉雄先生カジマヤー記念論文集編集委員会編 桑名 伊勢民俗学会, 1995.9 K382.1-HO
40. 近世先島の生活習俗／玉木順彦著 那覇 ひるぎ社, 1996.2 K384-TA
41. 沖縄の葬式：黒梓広告・社葬などの常識・非常識／佐久田繁編著 那覇 月刊沖縄社, 1995.12 K386-SA
42. 沖縄の名言：残しておきたい昔言葉；続／伊良波長傑解説；外間峻岩書；黒潮 西原町(沖縄県) 郷土出版, 1992.3 K388.8-HO
43. 島うたの小ぶしの中で／上原直彦著 沖縄 丹躰山房, 1995.8 K388.9-UE

4類 自然科学

1. 沖縄の数学史・経済史を考える／嶺井政行著 那覇 嶺井政行, 1994.3 K410.7-MI
2. 琉球地震列島：「地震がない」は迷信／加藤祐三著 南風原町(沖縄県) 那覇出版, 1995.12 K453.2-KA
3. サンゴ礁の磯：糸満市大度海岸／西平守孝編 那覇 沖縄県環境保健部自然保護課, 1991.3 (おきなわ海の自然観察, 1) K455-OK

4. 西表島／吉見光治著 東京 文一総合出版, 1995.7 K462-YO
5. 沖縄やんばるの森：世界的な自然をなぜ守れないのか／伊藤嘉昭著 東京 岩波書店, 1995.12 K462.1-IT
6. マンガ地球を救う大変革：EM が食糧・環境問題を根本から解決する／川上ケイ原作；林 東京 サンマーク出版, 1995.8 K465-KA
7. EM [有用生物群] 産業革命：農業が生きる・工業が変わる／比嘉照夫監修 東京 総合ユニコム, 1995.10 (EM 情報大百科 2) K465.04-HI
8. Okinawa 海の危険な生物たち：磯遊びとダイバーのためのガイドブック／吉野哲夫, 悦 秀満共著 那覇 琉球出版社, 1995.3 K481.72-YO
9. 沖縄の貝類：特別展：図録／沖縄県立博物館編 那覇 沖縄県立博物館友の会, 1992.8 K484-OK
10. 打たれた傷／犀川一夫著 那覇 沖縄県ハンセン病予防協会, 1982.9 K494.846-SA
11. 沖縄県地域住民の健康に関する保健学的総合研究／竹中静廣研究代表 西原町(沖縄県) 琉球大学, 1991.3 K498.07-TA
12. 気がつけば百歳：南の島, 沖縄の健康長寿から学ぶこと／秋坂真史著 東京 大修館書店, 1995.11 K498.38-AK
13. おとしよりと食事：健康長寿をめざして／松崎俊久, 松本貢子 那覇 沖縄県長寿社会振興財団, 199 K498.59-MA
14. ハンセン病医療ひとすじ／犀川一夫著 東京 岩波書店, 1996.3 K498.6-SA
- 修 東京 TOSS 出版, 1995.4 (地球環境教育の本シリーズ・地球を救う微生物 EM；第1巻) K519.07-CH
5. 水の汚れとその浄化／比嘉照夫監修 東京 TOSS 出版, 1995.4 (地球環境教育の本シリーズ・地球を救う微生物 EM；第2巻) K519.07-CH
6. 生まれ変わる生ゴミ／比嘉照夫監修 東京 TOSS 出版, 1995.4 (地球環境教育の本シリーズ・地球を救う微生物 EM；第3巻) K519.07-CH
7. 安心して食べられる農産物／比嘉照夫監修 東京 TOSS 出版, 1995.4 (地球環境教育の本シリーズ・地球を救う微生物 EM；第4巻) K519.07-CH
8. 安心して食べられる畜産物／比嘉照夫監修 東京 TOSS 出版, 1995.4 (地球環境教育の本シリーズ・地球を救う微生物 EM；第5巻) K519.07-CH
9. 消えゆく沖縄の山・川・海：環境読本／沖縄県教育文化資料センター 那覇 沖縄時事出版, 1996.1 K519.4-OK
10. 青年学生 of 自然保護運動に期待する／宇井純著 那覇 沖縄大学教養ゼミ「沖縄の水」有志, 1987.11 K519.8-UI
11. おきなわの自然と環境：ふるさとによりよい環境をめざして／環境教育副読本作成委員会編 那覇 沖縄県環境保健部公害対策課, 1992 K519.8-KA
12. 沖縄における復帰前近代建築の遺産に関する調査研究：報告書／日本建築学会九州支部 西原町 日本建築学会九州支部沖縄支所調査研究委員会, 1995.5 K521-NI
13. 沖縄の建築／沖縄建設新聞編 那覇 沖縄建設新聞, 1996.3 K526-OK
14. 黒潮しぶくキビの島：戦後・南大東島糖業復興小史／前原信松, 前原寿子著 那覇 前原寿子, 1996.2 K588.1-MA

5 類 工 学

1. 那覇市廃棄物処理処分現状調査及び将来計画に関する報告書 [出版地不明] 日本環境衛生センター, 1979.3 K518.2-NI
2. 沖縄の水 浦添 沖縄建設弘済会, 1989.5 K518.2-OK
3. 下水道30年のあゆみ／沖縄県土木建築部下水 那覇 沖縄県土木建築部下水道課, 1994.12 K518.2-OK
4. 私たちの生活に役立つ微生物／比嘉照夫監

6 類 産 業

1. 沖縄県地場産業振興新ビジョン：宮古・八重山地域の地場産業の振興について／沖縄県 那覇 沖縄県, 1991.3 K601-OK
2. 海・島・そしてふるさと：自ら考え自ら行

- う地域づくり／沖縄広報センター編 那覇
沖縄県総務部地方課, 1990.3 K602-OK
3. EM で生ゴミを活かす：家庭菜園から農業
利用まで／比嘉照夫著 東京 サンマーク
出版, 1995.6 K613.43-HI
 4. EM でつくる家庭菜園：だれでもできる自然
農法 熱海 自然農法国際研究開発セン
ター, 1995.4 K613.43-EM
 5. 微生物が文明を救う：大地を蘇生させる
EM の奇跡／比嘉照夫, 渡部昇一著 東京
クレスト社, 1995.12 K613.56-HI
 6. 特定高性能農業機械導入計画／沖縄県農林
水産部編 那覇 沖縄県農林水産部, 1994
K614.8-OK
 7. 沖縄のさとうきび育種事業／沖縄県農業試
験場糖業農産課 那覇 沖縄県農業試験場糖
業農産課, 1994 K617.1-OK
 8. 沖縄の街づくり・庭づくりに活かすつる植
物：特性と利用法／平良一男他著 浦添
沖縄出版, 1996.2 K629.7-TA
 9. 金武町億首川マングローブ調査報告書／金
武町教育委員会編 金武町(沖縄県) 金武
町教育委員会, 1993.8 K652-KI
 10. 沖縄県海洋レジャーの実態調査報告書／沖
縄県観光開発公社, 沖縄県中小企業振興公
社中小企業情報センター編 那覇 沖縄県
観光開発公社；沖縄県中小企業振興公社,
1988.3 K689-OK
- 縄高速印刷, 1995 K726.7-KY
6. 喜如嘉の写真集：写真で見る喜如嘉のあゆ
み／喜如嘉誌編集委員会編集 大宜見村
(沖縄県) 喜如嘉誌刊行会, 1995.12
K748-KI
 7. 漂う島とまる水：Okinawa Amami Manila/
砂守勝巳著 東京 クレオ, 1995.8
K748-SU
 8. 読谷山花織展：企画展／読谷村立歴史民俗
資料 読谷村(沖縄県) 読谷村立歴史民俗
資料館, 1995.4 K753.3-YO
 9. 八重山の心：トゥバラーマと人生／西原洋
子編著 東京 国文社, 1995.11
K761-NI
 10. 沖縄県吹奏楽連盟30年史／沖縄県吹奏楽連
盟 浦添 沖縄県吹奏楽連盟, 1993.12
K764.6-OK
 11. 海を渡る唄：The BOOM／川村恭子, 宝
島編集部編・著 東京 宝島社, 1993.12
K767.8-KA
 12. 新沖縄の磯釣り：最新山原のポイント集/
城 一人著 沖縄 フィッシング沖縄社,
1995.8 K787.1-JO
 13. 磯釣り581選！：沖縄本島ポイント：Fishing
Paradise／新垣柴太郎著 那覇 つり沖縄
新聞社, 1995.8 K787.1-AR
 14. Speed, strength, stamina / by Katherine Lou-
kopoulos Okinawa Barclay pub. co., 1995
K789-KA

7類 芸 術

1. 読谷村立美術館五年のあゆみ／読谷村教育
委員会 読谷村 読谷村立美術館, 1995.7
K706.9-YO
2. 沖縄決戦：血に染まった珊瑚の島／新里堅
進作・画 東京 ゲン・クリエイティブ,
1995 K726.1-SH
3. 島燃ゆ：宮古島人頭税物語／新里堅進作・
画 東京 クリエイティブ21, 1996.1
K726.1-SH
4. ハブ捕り：沖縄白ハブ伝説／新里堅進作・
画 東京 クリエイティブ21, 1995.10
K726.1-SH
5. ミキの冒険／キャサリン M. クレメンテ文・
絵；まさこ佐野・ダー和文草稿 那覇 沖

8類 語 学

1. 沖縄ことばの散歩道 続／池宮正治著 那
覇 ひるぎ社, 1995.12 (おきなわ文庫
75) K820-IK
2. 南琉球・八重山石垣方言の文法／宮良信詳
著 東京 くろしお出版, 1995.9
K885-MI

9類 文 学

1. 沖縄文芸年鑑 1995 那覇 沖縄タイムス,
1995.12 K905-OK
2. Okinawan poetry：琉歌英訳／Naganori Komine
Urasoe Chitose insatu, 1995 K913-NA
3. 天衣無縫：川上正人歌集／川上正人著 東

- 京 川上正人, 1995.7 K915-KA
4. 陽炎の記憶：金城けい詩集／金城けい著
東京 潮流出版社, 1995.9 K917-KI
5. 未還の海：再木耿詩集／再木耿著 那覇
林檎社, 1990.4 K917-SA
6. 現代琉球弧詩選集：No.3 (1995年版)／現
代琉球弧詩選の会編 西原町(沖縄県) 間
隙出版, 1996.2 K917-GE
7. かがやける荒野／大城立裕著 東京 新潮
社, 1995.12 K930-OS
8. 星の衣／高橋治著 東京 講談社, 1995.11
K930-TA
9. 豚の報い／又吉栄喜著 東京 文芸春秋,
1996.3 K930-MA
10. 琉球の風 [映像資料]／山田信夫脚本, 陳
舜臣原作 那覇「琉球の風」観光キャン
ペーン推進協議会, 1994 (NHK 大河ドラ
マ) K930-RYU
11. 遊疲労(ゆうひろろ)：太陽と海のかくれん
ぼ：末吉玲子エッセイ集／末吉玲子著 名
護 末吉玲子エッセイ集出版期成会事務局,
1995.12 K940-SU
12. 明治からのこぼればなし／大田政作著 東
京 大田政作, 199 K940-OT
13. ひめゆりの怨念火(いにんび)／知念功編
東京 インパクト出版会：イザラ書房,
1995.10 K950-CH
14. 私の沖縄戦／野溝利雄著 長野 ほおずき
書籍, 1995.10 K950-NO
15. 報道カメラマンの仕事／石川文洋著 東京
創和出版, 1995.12 K950-IS
16. がんを越えて：記者の闘病記／志良堂仁著
那覇 琉球新報社, 1995.11 K950-SH
17. きけわだつみのこえ [映像資料]／出目昌
伸監督, 早坂暁脚本 東京 東映ビデオ,
1995.12 (TOEI VIDEO) K960-KI
18. 磨柱漢詩集／石田磨柱著 秋田 宜野座通
男, 1995.12 K990-IS
- 注) 各資料末尾の記号は請求記号です。

お知らせ

- ◎ 夏季休業について
平成8年7月12日(金)～平成8年8月31日(土)は夏季休業のため、開館時間に変更があります。
- | | | |
|------------|---------|------------|
| ・中央館、医学部分館 | 月曜日～金曜日 | 8:30～17:00 |
| の開館時間 | 土曜日・日曜日 | 閉館 |
- ◎ 長期貸出開始
平成8年7月2日(火)～平成8年8月31日(土)まで夏季休業のため長期貸出を行います。貸出冊数は通常通りで変更はありません。
- ・返却期限は平成8年9月11日(水)迄
- ◎ 学術情報センターNACSIS-IR講習会の実施について
日 時：平成8年9月26日(木)～27日(金)
場 所：琉球大学情報処理センター第3実習室
対象・定員：主として教官、大学院生 50名
講習会内容：①NACSIS-IRの概要 ②検索実習 ③NACSIS-IRを介したILLの利用
- ◎ 電子掲示板の設置
中央館玄関(2階)に電子掲示板を設置しました。図書館からのお知らせなど、掲示しますのでご覧ください。

図 書 館 事 情

[会議]

◎ 第210回附属図書館運営委員会

日時：平成8年3月11日（月）

15時10分～16時25分

場所：附属図書館

報告事項：

- (1) CD-ROM 資料購入経費に係わる予算要求について
- (2) 平成7年度自然科学系外国図書資料収書計画調書の採択について
- (3) 共同利用学術雑誌専門委員会報告
- (4) 平成9年度概算要求について
- (5) その他

協議事項：

- (1) 平成8年度大型コレクション収書計画調書について
- (2) 平成8年度自然科学系図書資料収書計画調書について
- (3) 平成8年度沖縄関係文献資料購入計画調書について
- (4) 琉球大学附属図書館CD-ROM 検索システム利用規程について
- (5) その他

◎ 第211回附属図書館運営委員会

日時：平成8年6月13日（木）

15時10分～16時25分

場所：附属図書館会議室

報告事項：

- (1) 平成8年度九州地区大学図書館協議会総会について

(2) 平成8年度九州地区国立大学図書館協議会について

(3) 平成8年度国立大学附属図書館事務（部）課長会議について

(4) 平成7年度図書館統計について

(5) 平成8年度学生用図書の選書依頼について

(6) コンテンツ・シートサービス業務縮小について

(7) その他

協議事項：

(1) 電子図書館機能検討委員会（仮称）の設置について

(2) 附属図書館ボランティア制度の導入について

(3) その他

◎ 第17回 EDC セミナー開催

日時：平成8年5月30日（木）～31日（金）

場所：第1日目 沖縄都ホテル

〃：第2日目 琉球大学附属図書館

◎ 図書館新電子計算機システムの始動式

日時：平成8年6月13日（木）

16時30分～

場所：附属図書館多目的ホール

内容：桂学長、岩崎事務局長、砂川前学長及び図書館運営委員会の諸先生方の出席のもと「図書館新電子計算機システムの始動式」を挙行了。



中央館の CD-ROM 検索風景

[人事異動]

(平成8年4月1日発令)

氏名	現官職	前官職
中澤 富男	情報サービス課長	高知医科大学業務部医事課課長補佐
高嶺 悦子	情報管理課総務係長	経理部経理課給与係長
大城 弘安	情報管理課雑誌情報係長	情報管理課医学部分館資料管理係長
松原 敏夫	情報管理課医学部分館資料管理係長	情報管理課雑誌情報係長
金城 幸江	情報管理課総務係総務主任	医学部管理課用度第二係用度主任
榮野比常子	情報サービス課資料サービス係	施設部設備課電話交換手
山里 道子	情報サービス課医学部分館資料サービス係	情報サービス課資料サービス係
伊佐 牧子	情報サービス課参考調査係	情報サービス課医学部分館資料サービス係
千葉 明子	情報管理課図書情報係	新規採用

[図書館運営委員会委員名簿]

(平成8年5月1日現在)

局・職名	氏名	任期	局・職名	氏名	任期
附属図書館 館長	比嘉 良充	～ 8.10.31	医学部 教授	小杉 忠誠	～ 9. 9.30
“ 分館長	平田 幸男	～10. 3.31	“ 教授	飯淵 康雄	～ 8. 9.30
法文学部 助教授	波平 恒男	～ 9. 3.31	工学部 教授	大塩 光夫	～ 9. 3.31
“ 助教授	長部 悦弘	～10. 3.31	“ 助教授	伊良波繁雄	～10. 3.31
教育学部 教授	嘉数 朝子	～10. 3.31	農学部 助教授	吉永 安俊	～ 9. 3.31
“ 助教授	小澤 保博	～ 9. 3.31	“ 助教授	上里 健次	～10. 4.30
理学部 教授	澤舩 英正	～10. 3.31	教養部 助教授	赤嶺 守	～10. 3.31
“ 助教授	菅 修一	～ 9. 3.31	“ 助教授	浜崎 盛康	～10. 3.31

医学部分館だより

◎ 医学部分館長の再任

平成8年4月1日付けで医学科第一解剖学講座の平田幸男教授が医学部分館長に再任された。任期は平成10年3月31日まで。

◎ オリエンテーション

医学部オリエンテーションが平成8年4月9日(火)に行われ、平成8年度入学の医学部学生約170人に対し、医学部分館の案内、利用

方法等についての説明を行った。

また、5月22日(水)、23日(木)、29日(水)、31日(金)に平成8年度入学の医学研究科及び保健学研究科学生に対して、5月14日(火)、6月24日(月)には新人看護婦に対して、二次資料の解説と利用法、CD-ROM検索と文献の入手方法について、約2時間にわたり説明と実技指導を行った。

[医学部分館運営委員名簿]

(平成8年4月1日現在)

局・職名	氏名	任期	局・職名	氏名	任期
附属図書館 分館長	平田 幸男	～10. 3.31	泌尿器科学 教授	小川 由英	～10. 3.31
法医学 教授	宮崎 哲次	～10. 3.31	疫 学 教授	飯淵 康雄	～ 8. 9.30
生理学第一 教授	小杉 忠誠	～ 9. 9.30	看護学Ⅱ 助教授	伊是名初子	～10. 3.31
歯科口腔外科 教授	砂川 元	～10. 3.31	母子保健学 助教授	外間登美子	～10. 3.31
内科学第二 教授	高須 信行	～10. 3.31			



医学部分館における CD-ROM 検索風景

琉球大学附属図書館報“びぶりお”第29巻 第3号(通巻第111号)

平成8年7月発行

発行 琉球大学附属図書館 〒903-01 沖縄県中頭郡西原町千原1番地

電話 098(895)2221 内線(2143) 編集 びぶりお編集委員会